

讃岐香川の様々な文化発展を応援します。

文化通心

B U N K A T S U S H I N

2025冬 No.128



讃岐の文化の守り手たち

令和7年度第33回「財団賞」の表彰式が、財団の設立記念日の10月6日に行われました。受賞されたのは、「勝賀城跡保存会」と建築家の多田善昭氏でした。おめでとうございます。また、併せて助成金を受給される皆さまにも、実施される事業の報告や内容についてご説明いただきました。皆様の今後のご活躍について、楽しみに期待しております。

- 茶室 de 若人茶会 大手前高松・丸亀高校茶道部
- 第11回 あ・うんの数寄講座
茶の湯をさらに楽しむ夏期講習(後半)
- 12月から2月までの茶華道情報／財団からのお知らせ

発行：公益財団法人 中條文化振興財団
〒760-0017 高松市番町2丁目1番12号
TEL (087) 826-3355 FAX (087) 826-2212
2025年冬号 No.128 12月1日発行(季刊)



茶室 de 若人茶会

とき 令和7年8月10日(日)

処 晴松亭

席主 大手前高松・丸亀高校茶道部

8

月に開催された「茶室 de 若人茶会」では、まずこのような貴重な機会をいただき、本当にありがとうございます。

今回、私は部長として初めてお茶会を迎え、緊張と不安の中で準備を進めてきました。当日は、体調を崩してしまい亭主としての役割を十分に果たせなかったことや、部員の皆さんをうまくまとめられなかったことが反省点として大きく残りました。部長として責任を持つことの難しさを改めて実感した瞬間でもありました。

しかし、その一方で、自分にできる他の役割を見つけて取り組むことができたことや、部員のみんながそれぞれの役割をしっかりと果たしてくれたことはとても心強く、安心感を持ってお茶会を進められました。準備の段階から当日までを通して、茶道の作法や精神について改めて学ぶことができ、知識だけでなく、礼儀や協力の大切さも深く感じる事ができました。また、部員同士が助け合いながら一つのお茶会を作り上げる姿を間近で見ることができたのも、私にとって大き

な励みとなりました。今回の経験を今後に活かし、次回はより円滑で充実したお茶会を運営できるよう努力したいと思います。

改めて、今回のお茶会に関わってくださった皆様に心より感謝申し上げます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

藤田そら

今

回のお茶会は、初めて高校3年の先輩がいない中でのお茶会で不安なことや手間取ってしまったこともあったのですが、無事に終えることができ、良い経験になりました。

今まではただお茶会に向けた練習をし前日に準備、当日に参加するだけだったのですが、当時高校2年の先輩方がお茶会の「テーマ決め」「お菓子」「お茶の粉」などを決めてくださっていたことを知り、その事前に用意して下さっていたありがたさを見に沁みて感じました。

まずテーマ決めでは気をつけなければならぬことに昔の季節で考えることと、昔のテーマと被らないことと、お道具が決めやすいこととということがあり、部員全員で考えても、なかなか決まらずに1番手こずりました。テーマが決まり、富久ろ屋さんとかをり園さんにお菓子とお茶の粉の相談に行くのですが、ぎりぎりになりきつちりと決められていなくいま富久ろ屋さんに行ってしまったので、次の





お茶会ではきっちり決めてから訪れるようにしたいです。

当日のシフトは昨年度より部員全体の人数も減り、お手前やお半東が確実にできる人数も減ってしまっていたので決めるのが難しく、部員全員普段の練習を特に頑張りました。

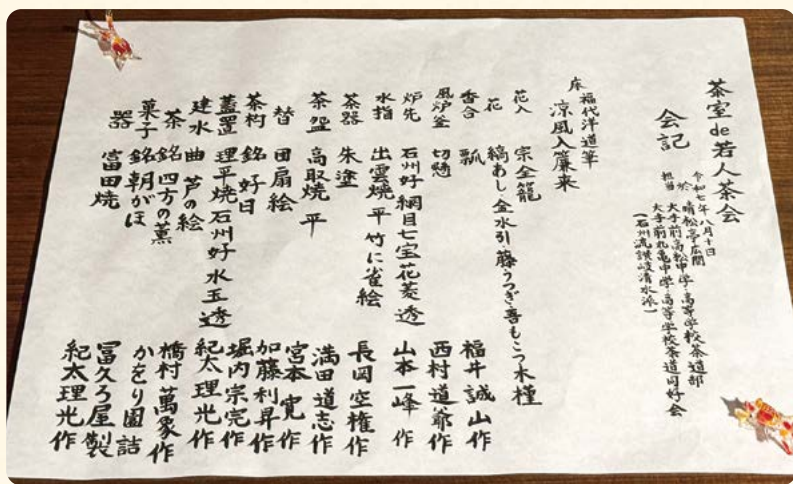
私は亭主をしたのですが、まだ2回目
で学校の勉強との兼ね合いもありなかな
か覚える時間がとれず、不安が多くあり
ました。前日の準備の日も同じく亭主を
する友人と何回も練習をしてある程度不
安を取り除くことができました。当日は
2回亭主をして、1回目は御正客さんの
質問には答えることができたのですが、
声が小さく先生からご指摘を受けまし
た。ただ受け答えはきちんとできていた
と言っていただけだったので、2回目は声に
注意して臨みました。その結果2回目は
受け答えもきちんとし、ある程度大きい
声も出すことができたので個人的にも達
成感があり、先生からも褒めていただけ
て自分の成長を感じられとても嬉しかっ
たです。

今回のお茶会では計画的に物事を進めることの大切さ、部員全体での情報の伝達、普段の稽古の取り組み方などを学ぶことができました。計画的に物事を進めることでは、早めに決めることは決めて自分たちの稽古に集中できるようにしたいです。部員全体での情報の伝達では、シフトの作成が遅れたことや参加人数の確認、稽古の内容などきちんと伝えるよ

うにしたいと思います。いつでも稽古ができるわけではないことを意識しながら真面目に真剣に取り組むことを大事にしたいと改めて思いました。まだまだ未熟なところも多いですが、部活全体で仲を深め、稽古ができることとお茶会を開催することができていることにありがたみを常に考えながら普段の稽古に取り組んでいると思います。

最後になりますが、今回のお茶会ではありがとうございました。これからよろしく願います。

鎌田唯



第11回 茶の湯をさらに楽しむ夏期講習

第3回 8月23日（土）

「最古の茶書・陸羽

『茶経』と日本」

講師 岩間 眞知子

（静岡県ふじのくに茶の都ミュージアム
客員研究員）

この度の講習は、中国及び世界で、現存最古の茶書『茶経』についてお話しいただきました。後世の茶書の骨格は全て茶経に基づくとされ、茶経の著者は茶聖と伝わる陸羽（733～803）です。現在の湖北省湖州で著作されました。

『茶経』は、上中下三巻十章からなり、茶の起源、茶文字、植物の特性、製茶道具、製茶方法。茶を煮て、茶を飲む茶器について。茶の煮方、水や炭の選び方。美味しい茶の飲み方の他、お茶に関する資料などについても書かれています。

唐代の書物のほとんどは木管や竹簡、紙に書かれ、それらが書写されて伝えられました。現在、最古の茶経は、南宋の版本『百川学海』とされています。

一之源 植物としての茶

茶は南方の嘉木なり。高さは一尺、二尺、数十尺に及ぶものまである。茶を表す文字は沢山ある。我々が一般的に使っ

ている「茶」は、開元文字音義に準ずる。その他に七つもある。

土壌についての記述は、茶の生える土地としては、上ランクは岩石が崩れてきた所。中ランクは、小石まじりの土壌。下ランクは黄土のような粘土状である。

茶は種を植えても実らず、繁茂することとは稀である。野生の茶が上等で、茶園で作られた茶はそれに次ぐ。

俟・人間性について

茶の効用として、薬味は極めて寒である。茶を飲むには行いが真面目で、慎ましく控えめな徳のある人が最も相応しい。

もし、熱があつて喉が渇いたり、気が塞いで鬱々としたり、頭が痛いとか、節々が痛くて伸びないような時は、わずかに四、五口も啜れば、神々や仙人の飲む醍醐、甘露にも匹敵する素晴らしい飲み物である。

茶の味。茶の性は、俟であるから水を多くするのはよろしくない。茶の味が暗く淡くなる。啜ると苦く飲み込んで甘いものは茶である。

俟・行い、性質の俟

『晋書』に、桓温は揚州の地方長官になっても、慎ましい性格のため、宴会の

たびにいつも、七つのお皿にお茶と軽食を出すばかりであった。とある。

俟は、慎み深いこと。中国の逸話で、「俟」を唱える人物は、いずれも貧者ではないが、贅沢を誇示するような生き方を否定し、慎ましかな生き方、姿勢を見せる。

「俟」という言葉は、日本の侘びに通ずるものがあると思うことでした。

侘という言葉は正直に慎み深く驕らぬ様と、「紹鷗わびの文」にもあります。

製茶について

茶摘みは2月から4月の間にする。茶の芽が筍状のものは、崩れた石状の肥沃な土地に生え、長さは四五寸。ゼンマイや蕨が初めて伸びるように出たものを朝露の乾かないうちに摘む。茶の芽が牙のように尖ったものは、茂みの上に出る。その枝の中で特に伸びたものを選んで摘む。茶摘みの日に雨が降っていたら茶は摘まず晴れても雲があれば摘まない。

茶は晴れた日に、①茶を摘み、②茶葉を蒸し、③蒸した茶葉を臼でつき、④規（型）に入れて成型、⑤焙つて、⑥穴を開けて、⑦それを（育に）封ずれば茶は乾燥して完成する。これが餅茶の作り方の手順です。出来た餅茶は、竹の棒に刺して一斤にまとめたり、カジノキの樹皮を剥いて作った紐に通したりしたそう



茶の鑑別法。①胡人の靴のように縮んだ様子のもの。とか⑥新しく地ならした所にわか雨が降り、その水が流れて筋を作った様子のもの。これらは優れたお茶の姿を表現したものです。逆に⑦竹の皮のような堅いもの、⑧霜枯れたハスのように、萎みやつれたものは、茶の味が乏しい。

茶摘みから封まで、七種の工程を経過し、「胡人の靴」から「霜枯れの荷」状の餅茶まで、独特の表現ながら、八等級あります。

茶の作り方

さて、こうして出来た餅茶は、まず餅茶を焙つて、木製の葉研で粉に挽いて、羅で漉します。鍋に湯を沸かし茶の粉を入れ、華（泡）を育て、碗に組み分ける。となります。鍋となる風炉は銅や鉄を鑄造して造る。昔の鼎のような形で厚みは三分、縁の幅は九分。脚は三本で、木火土金水と言った万物の根源となる二十一

文字を書き、あらゆる病気が治るとなり
ます。

風炉は、三本の脚の間に三つの窓があり、飾りとして花や蔓が垂れている模様、流水の模様など、今に伝わる風炉のデザインに通じるものだったようです。

木製の薬研は礪と言ひ、橘の木や、梨や桑も用いられた。内側は円く外は四角い。

茶に用いる水は、山水を用いるのが上等。川の水は次。井水は下である。

水は一升（六百cc）を煮て五碗に汲み分ける。重い濁りは沈澱し、精英なるものは上に浮かぶ。その湯の華（白い泡）を等しく分ける。その泡については、広く澄み渡って晴れた空に鱗鱗然と浮く雲のようである」とか詩的に表現される。

碗については、越州は上、鼎州は次、岳州は次、などと評価されている。越州の器は玉に例えられ、氷のような磁器であり、青いので茶の色は緑に見えるというのが、最高評価のポイントのようです。

茶が飲まれるようになったのは、神農氏に始まり、唐代に盛んになり、それ以降はどのうちでも飲むようになった。

まとめ

陸羽は、『茶経』で、お茶そのものにこだわりの、お茶を丁寧に精一杯作り、淹れ、飲む事を伝えている。道具の美やお茶との調和について語り、儉に繋がる生き方を提唱している。お茶を通して発露

する人間性を伝えておられます。

（中條晴之）

第4回 8月30日（土）

「うつわの哲学」

十一代 大樋 長左衛門

講師
（日本藝術院会員・美術家）

金沢で三百六十年続く大樋窯十一代長左衛門です。伝統に基づく作品は大樋長左衛門、現代美術では大樋年雄としてやっています。

我が家は古い武家屋敷でして、周りも歴史ある街並みなので母も含めて女性は和服姿の人が多く、和服以外の女性を見たくて高校・大学は東京ですごし、都会の女性の洋装を見て驚きました。高校時代はバスケットをしていて外国の高校生との交流もあり、会話ができるようになりたくて英語をマスターしました。この間も作陶はしていたがアメリカン・ラックというものがあるのを知りアリゾナ大学へ手紙を出したら入学させてくださり、専門の英語の家庭教師も付けてくれて学ばせていただきました。アリゾナの岩穴を訪れた時、隕石は外から地球へ来る、それに対してうつわは中から外へと広がっていくものだと思えました。隕石は真っ赤に焼けて地球に来る、つまり真っ赤に焼けた時に窯から取り出す楽焼と同じなんです。その思いで作品を作っ

たら恩賜賞をいただきました。その後は、アメリカの現代アートや陶芸を学ぶためにボストン大学大学院へ留学し、学びを終えて帰国しました。留学中、ハワイで茶道の家元と缶ビールを飲みハグを交わしたことが、シアトルでは途中で抜け出してイチロー選手の出ているマリナーズの試合を観に行ったことなどを思い出します。

帰国後、直ぐに取りかかったのは、祖父や父が使っていた缶入りの釉薬などをガラスビンに入れ替え使用量もすべてグラム数に変えました。これは、留学中、英語で書かれている釉薬を使用していたのでそうしました。また、帰国直後にコロナウイルス流行が起き、考えていた活動は一切できなくなりました。この間、工房に籠って世界中の粘土や福島原発事故で汚染された土などを使って作陶しましたし、「うつわの哲学」も執筆しました。

ちなみに、「器が大きい人」とは経験値の多い人のこと、「器量が良い人」と

は中身が多い人のことを言います。そして「命」という字は人が天に向かって器を捧げている様を表しています。

話は変わりますが、皆さん、ワークショップはご存じでしょうか。本当のワークショップは一人がゼロから作り出して作品を仕上げる公開講座のことなのです。今、伝統工芸が廃れていこうとしているのは、製造過程でいろいろかわった人たちが消されて最後に仕上げをした人だけが有名になっていることが問題なのです。私はハンガリー・ブラジル・オーストリアなどでワークショップを開きましたが、参加した人たちがはじめは片手で持っていたのが、焼成した後には両手で持ちます。大事に扱うようになるのです。茶碗を見るとその時の人たちがどんな様子だったか思い出されます。また、サンパウロで個展と茶会を開催したとき、日系人の方々が日本の伝統文化を大切にしていることがとても良くわかりました。

二〇二四年一月一日に起きた能登半島地震で我が家も昔から伝わる多くの貴重な作品が失われる被害に会いました。その片付けをしながら破片を眺めていて気が付いたんです、祖父・父・私の破片をつなぎ合わせて茶碗を作ってみようと。そして出来上がったのが「転生茶盤」です。天災は避けられないけれど、その中でも考えて生きていこうとすることが大切だと思います。「人間万事塞翁が馬」が一番なのです。



これからは、風水のことも勉強していこうと思っています。ぐるぐる回る神秘的な渦巻き模様、これは水の流れを表しますが、内にも外にも永遠に続く模様です。初代大樋長左衛門が残した茶道具にも多く残されています。水の流れと大きな樋（大樋）。いつか、風水の本も出版しようと思っています。

（千葉規美子）

第5回 8月31日（日）

「数寄者の話」

——白醉庵・吉村観阿を中心に——

講師 宮武慶之

（同志社大学京都と茶文化研究センター
共同研究員）

今回の講座は当講習のタイトルにもなっている「数寄」を考察していくものでした。茶の湯は日本の伝統文化と深くかわり、建築や庭園、工芸・絵画など広範な領域の日本文化に影響を及ぼしましたが、その本質は単に茶を点てて提供するだけではなく、茶の湯を媒介として人と人が心を通わせ、たがいの喜びや感動を共有する創造の場でした。

そして茶の湯を自らの理想の実現手段とし、独自の茶風を築いた人物を「数寄者」と考え江戸時代後期、茶の湯道具の「目利き」で人生を切り拓いた人物、吉村観阿を通して「数寄者とは」を紐解いていくものでした。

仙台藩御用達の江戸の両替商の家に生まれた観阿でしたが、仙台藩の返済の滞りから家業が傾き34歳の時に懷妊中の妻を残し出家してしまいます。そして浅草田原町に結んだ庵が白醉庵です。家業が仙台藩と深いつながりのある両替商であつた観阿は父とともに宗偏流の茶人でもありました。そこで培った目利きを生かし、美術商として茶道界とかかわっていき不味と深いかわりを持つていくのです。

不味は松江藩主でありながら徹底して茶人としての生き方を貫き、実際の茶会で名器と言われる茶器を用い客と共に感動を分かち合ったり、本来であれば塗物で薄茶用の高台寺時絵棗を濃茶器として、さらに薄茶席にはこれも本来は濃茶用として使われていた瀬戸茶人を取り合わせるなど自由な発想をしめし、その新鮮な取り合わせは後世の茶人に強い印象を与えたそうです。

そんな不味の茶会に観阿は40回以上招かれたといえます。そこで実際に名器を手取る機会を得たことにより道具の本質的価値を体感し成長していきましただ。さらに不味から送られた言葉や茶道具は両者の親密な関係を示し、観阿の精神的な支柱になり自らの茶風を確立していったと思われまふ。

観阿がなぜ不味にこれほど寵遇されたのか、こんな逸話を宮武先生の著書から・・・ある時不味の茶会に招かれた観阿が、不味を驚かそうと唐物の裂地を帯

にして参会した。それを見た不味は、「高価な裂地を帯にするとは！」と観阿の豪胆さに驚いた。しかし実際には帯の見える部分だけ高価な裂地を用いたという。これを聞いた不味は大笑した。このような観阿の奇行と嗜好を不味が好み、寵遇したと述べられていれる・・・自由人は自由人を愛すということですね。

観阿は不味との深いかわりの後、自らの茶風を確立し80歳の賀茶会では濃茶器として黒塗りの嵯峨棗を使っており、不味へのインスパイアが感じられます。さらに手土産で原羊游斉に125個の桃蒔絵細棗を作成させて友人たちに配布したといい、そこには人とのつながりを大切にし、茶の湯を通して友情を広げる観阿の理想が表れています。彼の所持品には高麗雨漏茶碗や嵯峨棗などがあり、不味からの影響と観阿自身の美意識が見事に融合しています。

宮武先生も観阿の所持品を用いた再現茶会を実践したそうです。その際には嵯峨棗で濃茶を練る茶筌の音に不味から観阿へと受け継がれた感動が確かに宿っていることを実感し、観阿がかつて抱いていた感謝や支えあつた人々への思いが響いてきて、茶会とは単なる儀礼の再現ではなく、心の交流を体現する場であると理解したそうです。

茶を差し上げるとは自らの心を差し出すことであり、その規模や形式に関わら



ずその本質は変わりません。二人とも、基本を大切にしつつ、感動を原点として新しい世界を築きました。その姿勢は現代に生きる私たちにも示唆的であり、まさに珠光の述べた「心の師」となる生き在り方を教えてくれます。数寄者たちの生き方を追体験することは茶の湯の普遍的価値を再認識する道でもあると教わりました。

数寄者とは茶を好み、自由な発想で茶の湯を楽しんだ人々です。彼らは道具を単なる所有物としてではなく、実際に用いて価値を生かし、人と人との交流の中で独自の世界を創造していく。そんな不味と観阿のかかわりは独特の世界観を生み出し、茶の湯の世界に新しい価値観を生み出した奇跡的な出会いであつたと思えました。

（香川二郎）

時越えてお遍路さんを支えるもの

四国88か所巡り、今はナビですが昔は遍路石が道案内でした。江戸初期に真念法師が約200基設置したとされ、現在は約37基確認されていて、そのうちの2基が第28番大日寺から第29番国分寺の間にあるそうです。その道中で見つけたのが「遍路石まんじゅう」の看板。

土佐遍路路は室戸岬の第24番最御崎寺から第25番から26番、27番と厳しい海岸線をたどり、28番大日寺で高知平野を望み、そこから平坦な道をたどって29番国分寺に向かいます。その途中にあるのがこのお店です。

険しい道からやっと平野部の道に出てもうすぐ国分寺という所で一休み。そんなロケーションが見えてきます。お店の方に「この辺りに遍路石はあるんですか？」と聞いたら「無いなあ」ですって。饅頭は薄茶色の生地以小豆餡が入った素朴な味わい。



優しい甘みの餡は疲れた体をいたわってくれそうです。このお店の特徴はこの饅頭しかないこと。一品で133年お店を守ってきました。

車で手軽にお遍路めぐりができますが、たまには約350年前に建てられた遍路石を探しながらゆっくり四国路を巡るのはいかかでしょう。

お茶の風景 (30)

茶室の花

利休七則は茶席の床を飾る「花は野にあるように」生けるべしと説き、南方録は「花人に入れざる花は沈丁花、深山しきみに鶏頭の花、女郎花、柘榴、河骨、金錢(盞花)、せんれい花をも嫌う也けり」と禁花を狂歌に詠みます。

かつて、女性の麗姿を「立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花」とたたえました。慈悲の聖観音は蓮華を持ち、清楚なマリアに白百合を添え、唐の玄宗皇帝は牡丹に楊貴妃を偲び、情熱のカルメンに深紅のバラが欠かせません。また、伊勢物語の在原業平と言えば杜若、花の下にて春死なんと詠んだ西行法師には桜、九州大宰府に赴く菅原道真を慕った飛び梅伝説、印象派の画家モネの睡蓮と花のイメージが重なります。

しかし一番身近に、幸せに微笑んだ花、哀しみの涙を慰めた花など誰にも忘れ得ぬ花があると思います。心のオアシスに咲いたその花、これからの人生を彩ってくれる花、大切に咲かせ続けたいものです。

財団行事予定
(12月～2月)

休館日水曜日

お申込みは財団まで。急遽中止になる事もあります。

12月

- ◆ 懐石講座 三友居 山本勝先生
12月2日(火)午前11時
- ◆ 書道教室 毎月第1・第3金曜日
森本義人先生
12月5日・19日(金)午前10時～12時
- ◆ 和菓子講座 毎月第2金曜日
高橋初乃先生
12月12日(金)午前10時～12時
- ◆ ヤングヤング(子供茶の湯教室)
毎月第2・第4土曜日 山下純子先生
12月13日・27日(土)午後1時～
- ◆ 月に一度の喫茶室 毎月第3火曜日
12月16日(火)午前10時～午後2時(受付)
自由なお時間にどうぞ(ランチは要予約)
- ◆ 12月月釜 五人様茶会
日時 12月21日(日)

- 処 美藻庵 晴松亭(当財団茶室)
- 濃茶 石州流讃岐清水派石州会
金澤宗保
- 煎茶 三癸亭賣茶流高松仙友会
鶴尾明美
- 会費 10,000円(濃茶・煎茶・点心席)
- 入席時間(各席6名・2時間15分を予定)
- 第1席 9時 第2席 10時30分
- 第3席 11時15分 第4席 12時45分
(各席A席・B席)

1月

- ◆ 和菓子講座 高橋初乃先生
1月9日(金)午前10時～12時
- ◆ ヤングヤング 山下純子先生
1月10日・24日(土)午後1時～
- ◆ 書道教室 森本義人先生
1月16日・30日(金)午前10時～12時
- ◆ 初釜
裏千家直門志俱会会員の鈴木宗博先生が、昨年の夏期講習にご講演いただいたご縁で点初のお席を設けてくださることになりました。
先生は和菓子研究家でもあり、淡交社「なごみ」に連載をされています。
「午年の茶会にて心よりお待ち申し上げ

ます」と席主のメッセージと合わせてご案内いたします。

好例の福引もありますのでお楽しみに。

日時 1月18日(日)

処 美藻庵 晴松亭(当財団茶室)

席主 裏千家教授 鈴木宗博

会費 20,000円(濃茶・薄茶・点心席)

入席時間(各席10名・2時間30分を予定)

第1席 9時 第2席 9時50分
第3席 10時40分 第4席 11時30分
第5席 12時20分 第6席 13時10分
第7席 14時

申込 電話受付 12月8日(月)10時～

◆ 月に一度の喫茶室

1月はお休みさせていただきます。

2月

- ◆ 書道教室 森本義人先生
2月6日・20日(金)午前10時～12時
- ◆ 和菓子講座 高橋初乃先生
2月13日(金)午前10時～12時
- ◆ ヤングヤング 山下純子先生
2月14日・28日(土)午後1時～
- ◆ 月に一度の喫茶室 毎月第3火曜日
2月17日(火)午前10時～午後2時(受付)
自由なお時間にどうぞ(ランチは要予約)

● 財団からのお知らせ

勝賀山「令和8年 新春の集い」について

本年度の財団賞を受賞された勝賀城跡保存会様より、「令和8年 新春の集い」参加のお誘いです。

①日時 令和8年1月1日 7時～

②登山について【所要時間】1.5時間

日の出(7時10分)に合わせて登山開始。

【駐車場】鬼無口、香西口に若干の駐車場はありますが、150人が登山しますので麓(農免道路より下)から徒歩で登山することをお勧めします。

【持参物】ライト、飲料水

③日の出・ビューポイント 正門(りゅうごんさん前)が最もご来光が見えます。(7時10分)

【配布物】木札「登山之証」、勝賀城跡の資料、保存会日より、「御城印」(有料・城跡整備のための寄附金500円)

明るくなって、資料を見ながら城跡を散策してみたいかがでしょうか？



(令和7年1月1日の初日の出)

問い合わせ

勝賀城跡保存会 永安良光
(TEL 090-8696-1904)

令和8年度 助成金応募受付中

● 対象事業

令和8年4月1日から令和9年3月31日までに実施予定の文化事業。

● 応募の方法

財団所定の助成金交付申請書を提出してください。

応募締切は、令和8年1月31日。

詳細(助成基準、所定の申請書等)は、当財団ホームページよりご確認ください。事務局までお問合せ下さい。

<https://chujo-zaidan.or.jp>

茶華道ガイド

急遽中止等の変更となる場合があります。

池坊高松支部 TEL090-2890-1187

2/21、22 華道家元池坊 香川県連合花展 席主：池坊さぬき支部
丸亀市体育館 500円 10:00～17:00

表千家同門会香川県支部 TEL(087)845-4638

2/8 東讃四季茶会 席主：藤本宗正
大西・アオイ記念館 1,000円 9:00～15:00

茶道裏千家淡交会香川支部 TEL(0877)62-4155

12/6、7 年末助け合チャリティ茶会 席主：琴平教授者
琴平町総合会館 500円 9:00～15:00

<月釜> 坂出市勤労福祉センター
令和8年度からの茶券代検討中 10:00～14:00

2/1 席主：山地宗敦

茶道裏千家淡交会高松支部 TEL(087)841-0605

<高松支部月釜> 大西・アオイ記念館
1,000円 9:30～15:00(時間指定)

12/7 席主：西川宗美

2/1 席主：松本宗優

東讃茶道懇話会 TEL(087)898-0391

<月釜> 池戸西徳寺 800円 9:00～15:30

12/7 席主：石州流光春庵

武者小路千家香川官休会 TEL(087)862-8574

<香川官休会月釜> 御坊町無量寿院 1,000円 9:00～15:00
1/18 席主：西村妙純

大西・アオイ記念財団 TEL(087)880-7888

12/14 大西・アオイ高校茶会 席主：高松高等学校茶華道部
大西・アオイ記念館 400円 10:00～13:10

2/15 きさらぎ茶会と華展 主催：高松市茶華道協会
席主：武者小路千家香川官休会

大西・アオイ記念館 1,000円 9:00～

2/22 第2回宗通茶会 席主：裏千家淡交会高松支部
大西・アオイ記念館 1,000円 9:30～14:20

高松市香南歴史民俗郷土館 TEL(087)879-0717

<由佐城月釜茶会> 第2研修室(和室)
前売券800円・当日券900円 9:30～14:30(全6席)

12/21 席主：寺岡宗由(茶道石州流宗家高松会)

2/15 席主：三好宇太郎(武者小路千家)

編集後記

体温越えの気温が続いた夏がやっと終わり、秋の訪れにほっとする間もなく初冬のような気候にあわてて衣替え、こんな年は何度目でしょうか？

日本には美しい四季があり、その折々に伝統行事やお祭りが行われてきた文化があります。

それだけに、四季の移ろいが薄れていくことは寂しいかぎりです。「暦の上では・・・」と注釈を付けながら話をしなければならぬ状況なのです。

といいつも、早いもので今年も納めの月になりました。

新しい年も皆様方と共に諸行事に取り組めますように願っています。

【声・情報お寄せください】

〒760-0017

高松市番町二丁目一十二

公益財団法人 中條文化振興財団編集部

TEL(087)826-1335

FAX(087)826-2212

info@chujo-zaidan.or.jp